

ポストコロナ時代の感染対策

◎中島 佳那子¹⁾
松阪市民病院¹⁾

【はじめに】

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の蔓延により、生理検査部門においても標準予防策に加えて、様々な感染対策や取り組みがなされてきた。当初は生理検査の必要性・適応を考慮し、実施中止や延期と判断される例も多くみられたが、十分な感染対策をした上での検査実施へと変化した。今後も継続して感染対策の徹底や環境整備を行う必要があり、感染症に応じて臨機応変に対応する必要がある。

【当院の概要】

三重県松阪市に位置する病床数 328 床（コロナ病棟 42 床，地域包括病床 39 床を含む），診療科目 25 科，一日外来患者数約 600 名の公立病院である。主な生理検査項目の検査件数は心電図検査 10222 件/年，肺機能検査 20773 件/年，超音波検査（腹部・心臓・血管・体表）10685 件/年，神経生理検査 290 件/年（2021 年度）である。

【当院における生理検査の感染対策】

心電図検査や超音波検査ではベッドシートを廃止し，検査終了後，その都度ベッドや枕のアルコール消毒を行い，検査毎に手洗いまたは手指消毒を行っている。救急外来での心電図検査は，全例でエプロン，手袋，アイシールドを着用し対応，コロナ病棟では，心電計はコロナ病棟専用のものを配置し，超音波検査機器（探触子を含む）はラッピングして使用，データ等は院内ネットワークを用いた無線化環境で管理・運用している。呼吸機能検査では，手の触れる部分のアルコール消毒を行い，マウスピースやノーズクリップはデイスポーザブル製品を使用し，神経生理検査では標準予防策の徹底にて検査を実施している。

【まとめ】

検査業務全体がコロナ禍を機に著しく変化し，各施設，各検査室で感染対策を確立してきた。さらに今後変化し続ける環境に対応するためにも常に新しい情報収集に努め，変革に適正・的確に対応することで感染対策の質を向上していく必要があると考える。

本来すべき感染対策・環境整備はプレコロナと基本的には何も変わっていないが，一様に感染対策に対する意識が高まった。コロナ禍での感染対策や意識改革が新しいスタンダードとなり，ポストコロナとして時代を見据えた感染対策を行うことが重要であると考え。連絡先 0598-23-1515